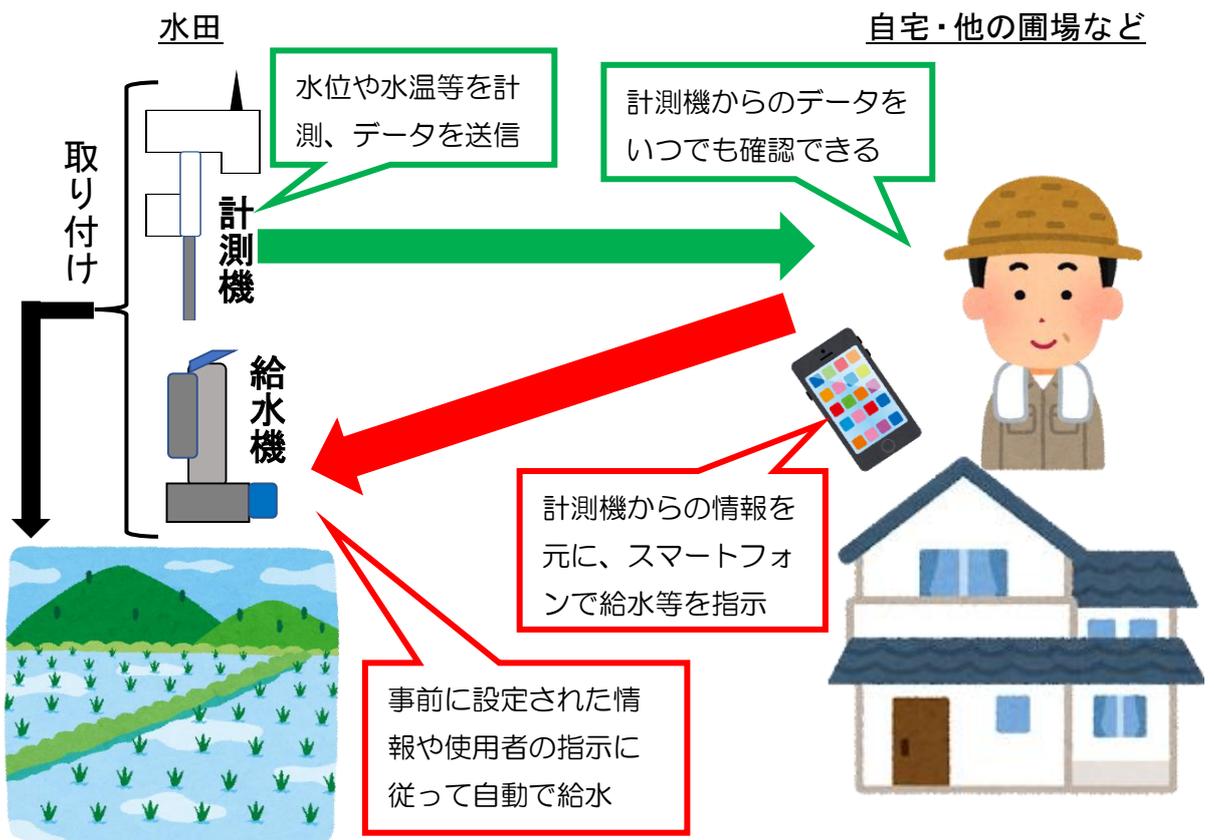


水田水位等管理システム

■ 概要

圃場に取り付けられ管理システムが水位や水温の情報を測定。使用者のスマートフォン等でそれらの情報がいつでも照会できる。

給水ゲートに取り付ける機器と併せて使用することで、水位の調整もスマートフォンからできる。



■ 期待できる効果

- ・ 圃場の水管理に掛かる作業時間・負担の軽減。(特に圃場間の距離がある場合、大幅な軽減が見込める)
- ・ 水位・水温の急な変化の見逃し防止。
- ・ データの蓄積による水管理のデジタル化・マニュアル化。

■ 留意点

- ・ 設置に際してインターネット環境が必要となるほか、クラウドの設定等が必要となることもある。
- ・ 圃場毎に機器を設置する必要があり、多数の圃場がある場合、導入費用が高額になることもある。

使用者の声

那須塩原市 菊地 望 さん

米(飼料用等含) 40ha、麦 10ha、ソバ 35畝

〔導入機器〕 ファーモ水位センサー・給水ゲート (株式会社 farmo)

菊地さんは水回り作業の短縮に向けて、昨年同機器を導入し、今年から活用を開始した。

従来は自宅から往復1時間ほどを水位管理に要していたが、自宅から近い水田にしながら、遠隔地の水田の水位を把握でき、作業時間の短縮に繋がっていることを実感している。

同機器の活用時期は5月～8月頃。菊地さんは代かきの後、各圃場に機器を設置した。設置から一月ほどは目視と併せて水位を確認し、機器の計測に誤差が生じていないかなど、使用感を確認。その後は毎日、朝・昼・夕の3回を目安にスマートフォンで確認し、目視での確認は週1回程度で済んでいる。

併せて、同社の給水ゲートも導入しており、計測器からの情報を確認して水位を管理している。

(株式会社 farmo HPから)



(左) 青色のホースを挟み、止水している給水ゲート。スマートフォンで遠隔地から開閉を操作できる。

シンプルな仕組みとなっているため、使い方も分かりやすい一方で、「簡素な作りなので自分でも直せるが、水門ゲートの部品が外れることもあるため、確認が必要だ」と菊地さんは話す。